

G—7 家庭科教育内容に関する研究 I

広島・東京・岩手の3都県における家庭内被服製作の実態調査 (第2報)

広島大教育 ○石渡すみ江
岩手大教育 清水 房
都立立川短大 大山サカエ

1. 第1報に引続いて、第2報は、つぎの事項について報告する。(1) 年間自家製作品別数量、(2) 年間自家製作品別の縫い方の実態について

2. 第1報に示した「1年間における自家製作品について」の調査票より「枚数」「縫い方区分」を3地域(広島・東京・岩手)別に集計を行なったものである。

3. (1) については、洋服類(13種)の製作量は、東京→広島→岩手の順になる。その中で、3地域にわたって多く作られているものは、スカート・ワンピース・ブラウスで、和服類(17種)は、岩手→広島→東京の順になり、大裁女物長着(ウール・もめん)・肌じゅばん・はんでんである。寝具類(8種)は、岩手→広島→東京

の順になり、ふとん類が、全作品中、もっとも多く、つくろいものは、「ときどきする」が約60%で、「全然しない」が1%である。小もの種（7類）は、ぞうきん・カバー類が多い。

(2) については、洋服類は、ほとんどミシンで、手縫のみは1%、ブラウス・ワンピースのえりつけ・そでつけは、前者が約80%、後者は約50%行なわれている。ファスナーつけは、全作品に行われている。和服類は、手縫のみが約80%行なわれ、あわせ・綿入れは大変少なくなっている。寝具類は、手縫のみは約50%、綿入れは約70%行なわれている。(1) (2)とも3地域の特色が、それぞれに表われている。